

皆様

元国会議員の後藤茂先生が、最近の反、脱原子力風潮を憂えられて、87才のご高齢にもかかわらず1年半を掛けて「憂国の原子力誕生秘話」を書き上げられ、エネルギーフォーラム社から新書として出版されました。

先生は社会党に居られながら、ただ一人信念を持って原子力推進を曲げられなかった方で、私は随分と可愛がって頂き、お世話になった先生です。

本の内容は、添付しました後藤先生への御礼感想文からお酌み取り下さい。小さな書店では並べてないかもしれませんが、丸善など大きなところで尋ねてくだされば置いてあると思います。

値段は 900円プラス税です。ご購入いただければ、胸の中のもやもやが取れること請け合いです。

石川迪夫

---

後藤先生

一昨日頂戴いたしました御著書、我を忘れて、一気に精読いたしました。

先ず私の知らなかった黎明の秘話、幾分かは感じていましたが原子力研究開発における学会内の葛藤、政治政党のリーダーシップの具体的な動き、原子力基本法策定のご苦労、前半の部分は原子力の歴史として非常に大切な記録と思います。

この先輩のご苦労に較べて、今の政治家の何と思慮不足で薄っぺらいことか、悲しくなります。

石油ショックの1970年頃からの歴史は、私も多少フォロー出来ます。特にソ連の原子力開発は大資本のためでないから安全だ、は思わず笑ってしまいました。

というのは、講演会で同じ質問があり、「私は技術者ですから、共産党政権だから安全に、日本だから不安全になどといった器用な作りは出来ません。ソ連に行っても日本でも常に安全につくります」と答えた覚えが2~3度有ります。

その頃は講演をする度に、「おまえの返答を国会で取り上げるぞ」との脅しが有った頃で、何処か共通の出所が有るのだろうと思っていましたが。

今日の社会風潮に対する見事なご批判、広く世を動かした歴史、故事、文学を引用されながら、多くは婉曲に、時には直接に厳しく、見事に語ってくださって居られます。有難うございました。

そして、その文章の中身全体から、後藤先生の穏和だが激しい情熱を秘められたお人柄が、自然ににじみ出しています。日本の原子力の歴史を伝える名著と思います。これは是非、多くの原子力関係者に読んで貰いたいと思い、知人に広く伝えようと思いました。

最後の社会党でのご苦労、お聞きはしていましたが、読み終えて改めて大変なご心労であったろうと拝察します。ありがとうございました。 石川迪夫